

■今月の特選句

2020年3月



カタログの重さ大きさ春が来た

山本 賜

春らしい色柄の洋服や靴、インテリアのご案内に、デパートがパンフレットになって届いたような気分。有難いんだけど全部見ると肩が凝るのよね。



日向ぼこする人は皆親日派

堀川明子

親日というから政治の話かと思わせるところが巧いね。するてえと、「お日様に背を向けてゐる反日派横向いている日和見派」。



二月は逃げる三月は去る爺老ける

泉 宗鶴

およそ優れた文芸にはドラマがある。俳句とてのんべんだらりと当たり前では価値がない。この句は下五の転換で見事な文芸となった。



去年今年自分に付ける通信簿

久我正明

この一年を総括して点数をつけてみる。自己肯定と自己否定をない混ぜにしつつ、自らにご苦労様と言うのか叱り飛ばすのか。



寒月光女がヒールを履く理由

桑田愛子

寒月光の夜道をハイヒールの女がコツコツと音を立てながら足早に歩いている。モノクロの映像がかえって読者に情景を想像させる。



細指のピアノシモから春立ちぬ

上山美穂

ピアノシモで春が始まり、春爛漫の頃にはフォルテシモのきらびやかさがある。細指が描くピアノの音の世界。音で季節を表現したところが斬新。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

万札で塞いでみたい隙間風 ・・・その日のうちに誰かが剥がす	吉原瑞雲
大噓道行く人を振り向かせ ・・・もしや新型肺炎かもと	梅岡菊子
倦怠期隙間風期と続きけり ・・・よくぞ我慢をおふたりさんは	田村米生
重い腰あがらぬままや春炬燵 ・・・自己責任といふものでせう	吉川正紀子
猫舌と噂されてる鍋奉行 ・・・名人にあるウイークポイント	壽命秀次
春泥に参りましたと膝小僧 ・・・春泥甘く見た天罰よ	高田敏男
新型ウイルス回り続ける洗濯機 ・・・ウイルスは目を回し降参	龍田珠美
ひやとひのドヤの窓にも冬の虹 ・・・すべての者に虹の平等	田中 勇
唇の先から乾く寒夜かな ・・・ちよつと一杯水を飲みなよ	渡部美香
茶封筒バレンタインのチョコ入れて ・・・特別のチョコ地味に装ひ	井野ひろみ
人間のエゴとは知らず室の花 ・・・人間のエゴエコにはならず	青木輝子
着ぶくれて犬に引っぱられて転ぶ ・・・薄着で大けがするよりかマシ	赤瀬川至安
傘の字の落書消さず卒業す ・・・あれはゴシップみたいなもので	竹下和宏

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

猫たちの欠伸の連鎖女正月

まつ先に箸つけるのは誰ふくと汁

初夢の欺瞞の闇にもがきゐる

焼け木杭火がつき炎上狂い咲き

年金者安近短の旅始

三が日何曜日だか解らない

冬籠和菓子洋菓子途切れなし

袋鼠(カンガルー)春節に来るチャイニーズ

飛馬始(ひめはじめ)カルロス風とともにゴーン

義理チョコもうれしきバレンタインデー

寒いね～ほんに寒いね寒いね～

凍結の道に固まる海馬なり

ほろ苦い味はお酒と蕨の薑

パン屑一かけで大パーティーのむら雀

電光石火女夜叉の舞いやカルタ取り

寒明けてなほ通院の日々続く

星の瞳別名びったりいぬふぐり

新型肺炎やむなく止める春の旅

八十四だよ七回目だよ年男

笹鳴や歯軋り舌打ち田舎道

赤丹のついて火鉢に炭を足す

臍曲がり九時には寝ます大晦日

年の暮捨てゝも捨てゝも物減らず

山茶花や背中まるめて人は過ぐ

亀鳴くや透明人間どこにゐる

若さとは汗を惜しまず唐辛子

歯磨きのシャカシャカシャカに朝の東風

冴返る最終バスに乗り損ね

春光を飛び越えて行くホームラン

受験子の最後の一手神頼み

鶯替(うそかえ)やついた嘘など記憶なく

目は泣いてゐるマスクをしてをれど

白梅の蕾ささやくやうにかな

初夢を思ひ出さむとして二度寝

インフルエンザよりも怖ろし新型肺炎

椿さん初雪つれて春となる

ハイヒールのかかどでショパン春の夜

立春と聞いて土筆が顔を出す

女正月味噌まんぢゅうの塩味かな

吾が爪の屑となりゆく春の夜

ドアホンに鼻を映す子春の午後

ながながと風邪の神ゐてもうあきた

寒月のおのが光をもて余す

空重し梅もおどろく絵馬のかほ

相原共良

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

荒井 類

荒井 類

荒井 類

井口夏子

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

石塚柚彩

石塚柚彩

石塚柚彩

泉 宗鶴

泉 宗鶴

伊藤浩睦

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲沢進一

稲沢進一

稲沢進一

稲葉純子

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

梅岡菊子

梅岡菊子

梅野光子

梅野光子

梅野光子

太田史彩

太田史彩

太田史彩

大林和代

大林和代

大林和代

笑いをこらえ恵方巻の丸かじり
 取り巻かれガキ大将の独楽まわる
 サクサク笑ふ通学路の霜柱
 チャチャチャと笹鳴きのごと膝痛む
 蓬色の湯舟に沈む餅となり
 嫌われものの鳶ゆうゆうと麗けし
 冬型の等圧線はメタボ気味
 老いて尚税金取らるる寒さかな
 人の貌被った鬼に豆を撒く
 白クマピース花の二十歳の誕生日
 年の暮原罪ありて遍路旅
 お四国の地図を片手に遍路旅
 お身体にお触れなきやう雪女
 利き酒の最後は落ち葉踏むこち
 蠟梅に融け込んでゆく鳥の声
 渇水期工事のシャベル喋る土手
 雨雫ぽつぽつ冬芽ふくらみぬ
 神が死んだとニーチェが言ふも冬青空
 春動く天地万物息をして
 囀やいつれおとらぬのど自慢
 たんぽぽの祭フライトは風まかせ
 逃水にうらぐちそつと開けてをく
 シクラメン出窓に置けば香立つ
 暖冬の空の晴朗椿さん
 ものぐさを戒めるかに冬木の芽
 囀に乗りてお鏡齧る嫁が君
 初詣干支の鼠がトーチ持つ
 新年になつて買ひ足す賀状かな
 笹を食ひパンダ写真に初仕事
 箸に乗り滋味光らかす寒卵
 ふうふうと吹いて息切れ七日粥
 右ひだり赤の他人や日向ぼこ
 口八丁三人寄れば女正月
 近年は出番少なし雪女
 寒泳の泣く子虐待疑われ
 玄関 それとなく家族減っている
 集まるとよく笑う落葉だね
 とつとことつとこ夫の背中 初詣
 焼蕎麦の冷めて初恋終りけり
 ここだけの話が漏れて絵踏かな
 言い訳に新型ウィルス冬籠
 初場所や炎鵬のごとき孫の欲し
 啓蟄や昔はパパで今アンタ

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 小川鮎太
 小川鮎太
 小川鮎太
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 小林英昭
 近藤須美子
 近藤須美子
 近藤須美子
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 高橋きのこ

春疾風胎内写真におちんちん
 盆梅の衣食足りたる構えかな
 焼海苔は水餅十個の包装紙
 厄除けの氏名年齢FAXす
 凍鶴や貧しくあれど賢者たり
 田山花袋も嘘を書く蒲団かな
 年玉や「綺麗で元気」と孫の世辞
 初旅は孫のスマホが頼りなり
 正月に来るのもおつくうがる娘
 法事でも大きなマスク威張ってる
 マフラーの洒落た巻き方大失敗
 巨大まぐろの解体子等を驚かす
 白鵬はがーんと搗(か)ち上げ稼初
 雑煮まだ腹にありけり酒欲無し
 鬼よりも貧乏神に豆を撒き
 買い物の度にマスクの入荷聞き
 花粉症準備せぬまま突入し
 大寒の朝に羊羹よう噛んで
 髭剃って歯を磨いてね山眠る
 寒ぼけに歓声上げるじじとばば
 大寒のテニス・ボールを叩きけり
 介護ゼロ卒寿が貰ふ流行性感冒(はやりかぜ)
 捨て切れぬ本も小家も冬籠
 二月来てはや来年の思索する
 あの人はどここの軒下猫の恋
 誉められも苦にもされずに梅五輪
 飛び切りの美人に出会いおたやん飴
 一日にシングルアクセル北極星
 ライバルは立春搾りよとビール党
 マネキンの袖が目を引く春隣
 春隣夜を彷徨ふ猫のみて
 いくつもの目が向けられる恵方かな
 記憶よりまさる忘却初寝覚
 松葉蟹言葉少なくむさぼれる
 葛湯飲む暗き世へ口尖らせて
 左で書く字のへなへなど春待ちぬ
 病院に行くも化粧や女正月
 痛む肩に魔法をかける肩蒲団
 薄氷にまぶしてみよか粉砂糖
 鼠みたいな芽をつけてある猫柳
 凍てゆるむ頬首肩もお財布も
 福も壽もめでたきことば福壽草
 AIの花の俳句がやはりランクA
 新聞にひろこの名前山笑ふ
 雪便り身も縮こまる老夫婦
 腹いっぱい年を喰ったか大晦日
 孫来たりお年玉連れ速帰る
 定刻に帰り実感日脚伸ぶ

竹下和宏
 竹下和宏
 龍田珠美
 龍田珠美
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 土屋泰山
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 西をさむ
 西をさむ
 西をさむ
 花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 林 桂子
 林 桂子
 林 桂子
 原田 暉
 原田 暉
 原田 暉
 久松久子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 廣田弘子
 廣田弘子
 廣田弘子
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 堀川明子

ひんまがる大根二本箱の底
 年齢の端数切り捨て年の豆
 煮てをりぬ鬼打つ豆をやはらかく
 下を見る鏡が欲しい落椿
 着膨れや嘘はひたすら包むもの
 内視鏡抜き去る喉に余寒なほ
 バスよりもバリトンが好き猫の妻
 ぬつときてによろと消へ去る猫の夫
 びりけんと迎へ朔日(ついたち)にらめつこ
 生首を寒にさらして仕舞風呂
 老いらくの恋も顔出す日向ぼこ
 饅米をいただきに来ぬ嫁が君
 大寒やわれは野良着の喜寿迎ふ
 妻の顔思い出しては鬼は外
 有名人客に向かって鬼は外
 商戦に載せられでかい恵方巻
 痕跡の確たる証雪女郎
 鬼遣らひ撒く手に宿る鬼なれや
 つくしんぼ謎の解ける子深まる子
 春を待つてみる水色のランドセル
 亀鳴くやなにを捨てたか忘れおり
 バラ売りをさらに強める限定マスク
 ヴィバルディーの春をちやらちやら弦楽器
 貝に気の毒馬鹿貝と呼ぶなんて
 鶯餅ちよつとやそつとじや鳴きやあせん
 宣伝と納豆だけはうまい宿
 目と耳を残して消えた雪兎
 軽やかにバレンタインの不義理かな
 さくら餅天下国家を棚上げし
 退屈な芸には野次で初笑
 吉書揚神はブラックホールへと
 まか不思議銀ぎら太陽小雪降る
 初売のくじびき二等賞となる
 リハビリの塗絵は未完寒椿
 猿団子兎団子の寒夜かな
 知り合いが遣って退けてる鬼やらい
 不都合な真実じわり日脚伸ぶ

堀川明子
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 村山好昭
 村山好昭
 村山好昭
 百千草
 百千草
 百千草
 森岡香代子
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛

厄詣の境内貧乏神に取り憑かれ
 願わくは経費でバレンタインチョコ
 桃源のトンマッコルへの道すがら
 春浅しシャッター切る手ちぢこまり
 春風や子等の夢のせ空高く
 梅下にてお披露目となり新墓石
 着ぶくれることなく過ごし温暖化
 越冬つばめ寄り添うて寄り添うて
 馥郁と香り画面の蠟梅は
 スマートフォンで世界を旅や冬ぬくし
 陽炎へりりハビリの友母に似て
 春は牛井「プレミアム牛井」を
 初場所の力士正代(しょうだい)走りけり
 煩惱のままに帰りに来初詣
 冷戦の炬燵に脚の置場なし
 義の消えて偽と疑満ちくる年初め
 鬼の豆つがいの鳩に啄ばまれ
 願かけの山路を急かす崖氷柱
 代わり喫茶を兼ねる雛の店
 姿見にパステルカラー春立ちぬ
 福の豆黄な粉にしても豆は豆
 無料バス憎まれ口にある寒さ
 採らずおく水禍の後の露の臺
 伊予柑の汁の飛び交ふ予感かな
 デコルテの少しやせたり落椿
 悪名に大迷惑さ桜泣く
 診療の予約はスマホ春うらら

山内 更
 山内 更
 山岡純子
 山岡純子
 山岡純子
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 横山喜三郎
 横山喜三郎
 横山喜三郎
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子